

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300196		
法人名	社会福祉法人 三陸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームさんりく		
所在地	岩手県大船渡市三陸町越喜来字所通91番地		
自己評価作成日	平成28年9月12日	評価結果市町村受理日	平成29年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&ji_gyosyoCd=0370300196-00&PrfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新施設にて事業を開始してから3年になりました。地域との交流にて、小・中学校運動会の招待を受け参加したり、婦人会との「かまもち作り」や大正琴の慰問、地域合同の敬老会の開催など毎年恒例となってきています。また、小規模多機能と併設になっていることで、自由に行き来できて、一緒にお茶を飲んだり、レクに参加をしたりと交流が持たれ楽しく過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

震災後、以前の地域から、背地の高台に耐震耐火構造の建物を建設した。法人本部と各事業所があり、館内の地域交流ホームは災害時避難所ともなり、様々な催しの場としても、地域との繋がりに使われている。災害時対応の通報装置や、備蓄品も整備され、特に自家発電設備は特筆される。法人内事業所の多機能ホームが同じフロアに隣接しており、利用者の交流や、職員間の協力支援、入浴施設の利用(器機使用の入浴)が出来るなど、介護サービスも増幅されている。高齢の利用者が多く、職員は常に注意深く観察し気付きシートや一行シートに記録し、プラン作りや家族への連絡に役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入口に理念を掲示し、職員が常に意識し「その人らしく」生活ができるように実践に繋げていけるよう努めている。	利用者、一人ひとりが「その人らしく生活出来る事とは」何かを職員の意識に問かける当事業所の理念は、常に立ち戻ることが出来る基本の考え方とし、その実践に向けての職員全員の共通認識に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校の運動会をはじめ、婦人会との「かまもち作り」、敬老会も地区合同で当施設で開かれ家族も参加され楽しい時を過ごされている。	地区内の学校行事や婦人団体の催しに参加し、地域との交流を図っている。地区合同敬老会が、当法人内施設で行なわれ、利用者とその家族も参加して、事業所と地域がより近い関係が築かれている。	震災前の地区中心地での地域との関係作りから、新しい地での取り組みには課題も多いと思われるが、法人全体が集約され、地区での催しの場として利用されるなど、優位点も多い事からそれらを活用して認知症に対する地域での理解が深まり、グループホームの「社会的信頼」を高めるための活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者に役立つ取り組みは行っていないが、今後、さまざまな機会をつくりより良い関係を築きながら取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、事前に議題を決め取り組むようにしている。今後も率直な意見を頂きながらサービス向上に繋げていきたい。	運営推進会議の進め方について、過年度の検討から議題を事前に決めて会議を持ち、的が絞られた意見交換の場となり、事業所に対しての地域の理解と支援に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議メンバーで市の担当者も出席しており、事業所の考え方や現場の実情は伝わっている。また、会議の席では、市担当者より地域の高齢者の実情等も聞いたり関係作りに努めている。	運営推進会議に市の担当者の参加があり、事業所の実情は理解してもらっている。事務的な手続きや届出などの他、担当者から地域内の関係する情報も伝えられるなど、連絡を密にして関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束では、「言葉による拘束」も常に念頭におきながら安全を確保しながら支援するように努めている。	玄関や開口部の施錠、利用者の言葉を封じるなど様々な自由を制限する具体的禁止行為の理解の上で、利用者本人の現状からその安全確保も大事と考え注意深く見守り、自由な暮らしの確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に出来るだけ参加できるように機会を設け、身体的虐待のほか、言葉の虐待についても常にマニュアルを確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要とされる利用者はいないが、定期的に学習しながら必要とされた時に対応できるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、介護改定等には、必ず家族へ説明し理解、納得頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の際は、利用者本人の状態を伝えるほか、家族からの意見・要望を聞くようにしている。今後は内容等を考えながらアンケートなど取り組んでいきたい。	毎月の利用料の支払いを家族の方に持参して頂くようお願いして、その面談の折、家族の意見や要望を聞かせて頂くようにしている。また利用者本人の日々の様子を担当職員が記録している“一行日誌”を送って家族に知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者が心地よく生活できるように常に考える機会を設け、提案があれば一緒に考え実行できるように心がけている。	利用者の居心地を第一に考えた提案を職員、運営者と共に考え、職員の発想を基に、季節的な模様替えや利用者の安全確保の具体化につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状況を把握し、無理のない勤務体制にならないように努め、出来る限り研修への参加や希望があれば有給休暇を取り入れながら業務に支障のないように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画の内容を個々に確認してもらい、経験豊富な職員がリーダーとなって、日々仕事をしながら知識や技術を身につけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修を始め、外部研修には出来る限り参加できるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前の段階では、何度か本人に面会に行き、会話をしながら不安や気持ちを受け止めながら信頼関係を築けるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、契約時には、時間をかけてじっくり話を聞くように心かけている。さまざまな思いを受け止め、少しでも不安や悩みの解決に努め、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入所出来るまでの、他サービスの内容の説明や情報を提供しながら納得・安心して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にその日によって行動や精神状態が異なりますが、その都度、本人の表情や言動・行動から思いを組み取り信頼関係が作れるように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回は、家族が「預かり確認票」を持参する事になっており、その際は入所者の所に寄り添って頂くようにしている。また、家族が宿泊希望された時は、快く宿泊して頂けるように努めている。随時、家族と密に連絡を取り合いながら、互いに協力しあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用されて理美容室や馴染みのスーパーへ買い物に出かけたり、また、親戚など定期的に面会に来られ、居室にて談笑されていく方もいる。	近親者の訪問や馴染みの理容所の来訪で、親しみを思い起こす方も居られるが、馴染みの記憶の遠い方への対応も課題と考え、近くに買い物に出掛けるなどの工夫もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でも気の合う・合わないがある為、座席の配慮をしている。また、ソファに互いに座って会話は成立しながら寄り添って会話されている場面も見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで、契約終了となった入所者は全て死亡により終了されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の困難な方もいるが、本人の思いをくみ取りながら支援するように努めている。また、さまざまな場面で利用者自身が選択できような声掛けを行っている。	通常の会話でのコミュニケーションの取れない利用者に、担当する職員が本人の思いの探り出しに積極的に色々な工夫で取り組んで、その中から本人自身の選択が出来るような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調の際の聞き取りや、調査書の特記事項、本人との個々の歴史や思い出を語り合いながら信頼関係を作り安心して生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との生活の中で、職員は目を配り出来る事に気づき、力が維持できるように情報を共有しながら努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「気づきシート」を活用し、カンファレンスを開きながら計画の見直しを行っている。	毎月のモニタリングを続け、本人ごとの気づきシートを活用し、医療機関からの情報やその他の意見も集め、検討会などでの計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやノート、個別記録を活用しながら、職員間で情報を共有しながら実践に生かし、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに合わせて、家族と相談した上で職員間でも話し合い、臨機応変に支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街への買い物や病院、理容室の訪問など協力して頂きながら取り組んでいる。今後、小学校・こども園と近くなる事から交流できる機会を作りたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、家族にも協力を頂いている。殆んどの入居者様の主治医が診療所の医師となっており、定期的な受診をはじめ、状態によっては往診の対応も頂き、医師と家族との面談も行われる時もあり安心して生活出来ている。	震災以前には、事業所と公立の診療所が、至近の距離にあったことから、大部分の利用者がそのかかりつけ医としていて、定期的な受診をはじめ、応診にも対応して頂き、本人家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本的に、受診介助は看護師が対応している。日々の状態を適切に医師に伝え、指示を頂くようにしている。また、職員は観察し状態変化が見られた時は、直ぐに看護師に報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人と定期的な面会を行い、家族や医療機関とも連携を図りながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度、利用者の状態に応じ、家族と話し合いを持っている。看取り期については、家族と主治医で面談し理解をして頂いた上で同意をいただき対応している。	利用者の状態変化に応じ、その都度、家族との話し合いを持ち、看取り期への方針は主治医と家族の面談の上で理解と同意を頂き、その後の支援に向けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の体制については「緊急連絡体制図」やマニュアルを作成し周知徹底を図っている。応急手当についての訓練については、実施出来ていない。定期的に訓練をして行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災計画をもとに、年2回夜間を想定した訓練を実施している。地域住民の方々や運営推進会議委員の方々にも協力を頂いている。	災害時対応の訓練など、法人全体での計画にのっとり実施している。年間2回の夜間想定避難訓練が計画されている。災害時対応の設備(自家発電)機器類、備蓄品などに万全を期している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者の個々の性格を理解し受け止めながらプライバシーを損ねないように努めている。	利用者の誇りを尊重しその権利を守るには利用者個々の性格を十分に理解し、その全てを受け止め、弱い部分を補って、職員同士声をかけ合っ、てプライバシーの確保のための確認をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや選択や活動への参加など、その時々場面において声掛けし表情等をみながら意思を読み取るように心かけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の利用者状態を把握しながら、個々のペースに合わせ柔軟な対応に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を選び着れる方は、タンスの中を常に整えて自由に脱ぎ着出来るようにしている。また、時期を見て衣類の整理整頓し季節に合った衣類を着て頂いている。外出時や催し物などではおしゃれをしたり、日々の生活でも身だしなみには気を配っている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症状の進行により、職員と一緒に食事作りも難しくなっているが、畑で取れた豆など仕分けたり出来る事を見極めながらお手伝いをして頂いている。	利用者の大部分の方が、かつてのように食材の下拵えや配膳などの手伝いが難しくなっている現況から、食べることの楽しみを失わないよう、職員は食べ物の名前や味付けのことなどを添えた介助をしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を観察・記録しながら把握し、献立についても職員同士がバランスを考えながら提供している。また、月末には、管理栄養士に献立表を見てもらいコメントを頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・誘導を行い口腔ケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し定期的な声掛けしながらトイレ誘導を行っている。また、昼夜の排泄用品の工夫などしながら対応している。	排泄チェックから、パターンを見つけ出し、声かけでトイレへの誘導を行なっている。安心して眠られるよう夜の衛生用品も工夫していて、特に清潔保持を大事と考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い排便状況の把握に努めている。乳製品の提供や下剤が処方となっている入所者もいる為、医師の指示通り確実の服用し排便の有無を確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて入浴は行っているが、その時の気分や状態で拒否ある場合は強制せず、日を改めたり、時間を置いて再度声掛けをしたりしながら支援している。	入浴日を、一応設定しているが、利用者個々には強制することなく、本人の気分に合わせて入浴している。個浴用の浴槽に入れなくなって来た場合は、隣接事業所の機器付風呂を活用し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後、昼食後、活動後など、個々の状態を見ながら声掛けしながら休息を行っている。夜間についても、個々の時間や状態に合わせて、職員と団欒しながらゆっくり入眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が常に確認できるよう、入居者個々の薬情報を準備している。常に内服薬の管理は看護師が行い、誤薬防止に必ず職員2人で確認し服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、楽しく生活ができ気分転換を図れるようにしている。(掃除・畑・ドライブ・多機能で他者との交流など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望(不穏時)等は、本人が納得いくように外出している。また、お盆・お正月など自宅に帰省される方もおり家族に協力して頂いている。	家族の協力で外泊に行かれる方もおられるが、身体状況の事から、日常的に出掛ける希望の方は少なくなっている。恵まれた自然環境なので出来る限りのその活用を考え日常的な支援につなげるよう考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には、自分でお金を持っている事で安心される方もおり、金額は少ないが自己管理されている方もいる。また、家族よりお小遣いとして事業所で預かり、外出時は買い物をしたりしている。家族には、毎月金銭出納簿や確認書を送付し確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より、自ら電話をかける事は少ないが、訴えがある時は対応している。また、遠方にいる家族より荷物や手紙が届いた際は、電話をかけ本人が変わって会話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明については、落ち着ける感じがあり、室内温度も入居者にあわせ調整を行っている。また、季節感を感じられるように、室内の装飾も工夫しながら心地よく過ごせるように努めている。	事業所の共用の居間は、自然そのものの風景や、風の取り込みが出来る、季節そのものの中に居る感じがする。調理場が食卓のすぐ側で食事への楽しみが湧いてくるような多用途な居間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホール、廊下奥にソファがあり、気の合う同士で座ってテレビを見たり、一人で奥のファアで過ごして方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は、家族・本人の居心地の良い空間づくりをしてもらいように協力を頂いている。また、家族からの贈り物や写真など飾ることで安心して生活できるように支援している。	備え付けのキャッジベッド、小型の整理タンス、洗面台がセットされ、整理され清潔感あふれた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設設備については、安全面を配慮した造りとなっている。その都度、入居者にとって環境面で問題が生じた場合は工夫しながら安全に生活できるよう支援している。		